

# 行田市制施行70周年記念事業 ラグビー日本代表応援田んぼアート



**東会場テーマ：ラグビー日本代表応援田んぼアート**  
supported by ニポコジャパン

今年度は市制施行70周年を記念して2つのアートを作成しました。東会場では、世界3大スポーツイベントにも数えられるラグビーワールドカップ2019™日本大会が開催されることから、ラグビー日本代表を応援するテーマに決定。デザインは、ラグビー日本代表のオフィシャルパートナーである大正製薬株式会社の全面協力のもと、主軸として活躍が期待される3選手（姫野和樹選手、リーチマイケル選手、田中史朗選手）を描きました。約1千人の参加者により田植えが行われた田んぼアートは、全面的稲刈りを行う11月14日まで、古代蓮会館展望室から屈強な選手たちの姿を一望できます。

また、今回のデザインとなっている田中史朗選手の妻・智美さんと娘・愛真さんが6月に行われた田植えに参加されました。そして、見頃を迎えた中旬には、田中選手本人が代表合宿の合間を縫って、家族と一緒に田んぼアートをご覧になりました。本市に限らずこの「一生に一度」のスポーツの祭典を盛り上げようと、全国各地の田んぼアート団体がラグビーに関連したデザインを描いています。一生懸命植えられた田んぼアートはラグビー日本代表の活躍を後押しすることでしょう。

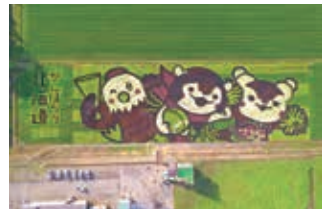
## 「食」で田んぼアートを 支え続けて



行田市食生活改善推進員協議会会長  
島田 洋子 さん

平成21年度から調理ボランティアとして田んぼアートに参加しています。田植えイベントや稲刈りイベントの参加者に行田の農産物をおいしく召し上がっていただくために地産地消・安心安全を第一に考えたメニューの作成や調理に臨んでいます。今年は、行田在来青大豆から作ったみそを使用した豚汁を振る舞いました。食生活改善推進員協議会の会員で約1,000食分調理するのは大変ですが、参加者が田植え作業を終えておいしそうに食べている姿を見ると、とてもうれしく思います。これからも、全国から田んぼアートの田植えなどに来た方々に料理を振る舞っていきたいです。

▼「がんばろう北海道」(北海道旭川市・JAたいせつ田んぼアート実行委員会)



▲「ラグビーをするきくのと茶ラリーマン」(静岡県菊川市・田んぼアート菊川)



▼「こしがや田んぼアート2019キン肉マンとラグビー日本代表の夢のタッグ」(埼玉県越谷市・(一社)越谷市観光協会)



## 南会場テーマ：「令和」への改元を祝したデザイン



古代蓮会館南側の田んぼには、「令和」の文字を描きました。新元号の出版典として注目を集める「万葉集」ですが、その中には本市にゆかりのある歌が4首詠まれており、歌碑も市内3カ所にあります。「万葉集」と「行田市」の不思議な縁、そして市制施行70周年と改元を同年に迎えたことを記念し、新元号発表時の様子を体現できるアートになっています。また、デザインとなっている「令和」の書は本市在住の書道家が作成したものです。「書」と「田んぼアート」という異なるアートのコラボレーションが、実現しました。

## 13年目の田んぼアートに向けて

本市の田んぼアートは田んぼアート米づくり体験事業推進協議会を中心に、多くの方のご理解とご協力を得て継続しています。2020年オリンピック・パラリンピックウィヤーとなる13年目は、田んぼアートを世界へ発信し、米文化の魅力を伝えていきます。農業振興と観光促進を担う田んぼアートはさらなる成長を続けていきます。

▼問い合わせ 田んぼアート米づくり体験事業推進協議会事務局(農政課内・内線386)

水田に色の異なる稲を植えて絵を描く田んぼアートは、今年で12年目を迎えました。ここでは、市制施行70周年記念事業として実施されている田んぼアートを紹介します。

## 田んぼアートの歩み

本市は北を利根川、南を荒川に挟まれた肥沃な土地をもつ穀倉地帯にあります。中でも、米は県内有数の生産量を誇っていますが、全国的に米の消費量は年々減少しているのが現状です。そこで、本市の特産ともいえる「おいしい米」や観光地としての行田を広くPRしたいとの思いから始まったのが田んぼアートです。

田んぼアートは、青森県田舎館村が平成5年に始め、現在では全国各地の自治体や農業団体が取り組んでいます。本市では、地元農家や関係団体が構成された「田んぼアート米づくり体験事業推進協議会」が主体となり、平成20年度から古代蓮の里東側に隣接する水田で実施しています。平成27年度には「最大の田んぼアート」としてギネス世界記録®に認定されました。



平成27年にギネス世界記録®に認定された田んぼアート「未来へつなぐ古の軌跡」